

# 「日本に住んでいるからこそ」

渋川市立渋川中学校 三年 清水 咲希

二〇二四年元日。私は祖母の家に行くため家族全員で車に乗って移動していた。すると突然、緊急地震速報が鳴った。能登半島地震が起こったのだ。ニュースでは、石川の映像が流れていて、建物が倒壊する様子がさまざまメディアで取り上げられていた。

私はその中の一つの動画を見て土砂災害の恐ろしさに気づかされた。その動画には地震によって崩れた土砂が撮影している人に迫ってくる様子が映っていた。私はそれまで、土砂災害が発生した後の様子しか見たことがなかったため、土砂災害の恐ろしさについてはほとんど知らなかった。私はその映像を見て、土砂が崩れる速さはとても速いのだと初めて知った。能登半島地震はたくさんさんの被害をもたらした。中でも土砂災害は五十三件も発生していて、死者は二十三人にも及んでいる。その事実を知った私は、土砂災害はたくさんさんの人の命を奪う恐ろしい災害なのだと改めて実感した。

日本は山地やもろい地質の山が多いため、土砂災害が起こりやすい。実際、年間で平均すると、約千件の土砂災害が発生している。また、死者や行方不明者数にはばらつきがあるものの、平成三十年には百六十一人の死者、行方不明者がいることが分かっている。去年の死者、行方不明者は八人に減っているものの、土砂災害はいつ、どこで起きてもおかしくはない。私は今まで土砂災害は年に数回しか起きていないだろうと思っていたし、土砂災害で亡くなった人は多くて十人くらいだと思っていた。平成三十年にたくさんさんの土砂災害が起きていることは知らなかったため、もう少し土砂災害のニュースについて知っておくべきだと思った。

そんな土砂災害が多い国、日本はいろいろな対策をしていることが分かった。例えば、土砂災害が想定される地域で継続的に観測を行い、災害の発生に備えたりしている。その中でも印象に残った対策は、地面がむき出しになっている斜面にコンクリートなどでおさえ固定したり、斜面に木や草を植えたりして山が崩れるのを防いでいるという対策だ。私はこの対策を知って、高速道路などで見かけたことがあったが、土砂災害対策だと思っただけではいなかった。また、身近なところにも対策されているところはあるのだと初めて知った。

私の住んでいる地域にもたくさんさんの山があるため、初めてハザードマップを見ることがあった。幸い、私の家は、土砂災害警戒区域ではなかった。しかし、今まで行ったことがあるところろは土砂災害特別警戒区域だったので、とても驚いた。自分の住んでいる地域にも危険なところろはたくさんあるのだと初めて知った。群馬県は自然がたくさんあり、とてもいい場所であるが、その反面危険が潜んでいるのだと改めて感じた。

しかし、森林があるから土砂災害が起こるわけではない。森林は土砂災害を少しでも防ぐことができる。地面が落ち葉や草でおおわれているため、直接雨が土をけずることや土が流れ出ることを防いでいるのだ。私は森林が土砂災害を防ぐことは知っていたが、なぜ防ぐことができるのかは知らなかった。なので、森林の力はすごいのだなと思った。

私は今回、土砂災害についていろいろなことを調べてみて改めて土砂災害の恐ろしさについて知ることができた。土砂災害は人に危害を加えるだけでなく、建物も破壊してしまう。そのため、発生してから時間がたっても大変な日々を送らなければいけないのだと気づいた。土砂災害が発生しそうなときは、情報をこまめに確認する。そして、避難の仕方を家族で確かめておくことが重要だと学んだ。私たちのまわりで土砂災害が起きる日も遠くないかもしれないと思うと、土砂災害はとても恐ろしい災害だと思う。土砂災害が起こりやすい日本に住んでいるからこそ私たちは、土砂災害の危険性を理解しておく必要がある。そして、これからの日本で土砂災害による死者、行方不明者をなくすために、そして自分の命を自分で守るためにも、今回学んだことを活かしていきたいと思う。